

もしも生ゴミ減ったなら……

家庭のごみ袋代が減る！  
市のごみ焼却費用が減る！  
地球温暖化の防止になる！  
堆肥に変えて有機野菜の栽培ができる！

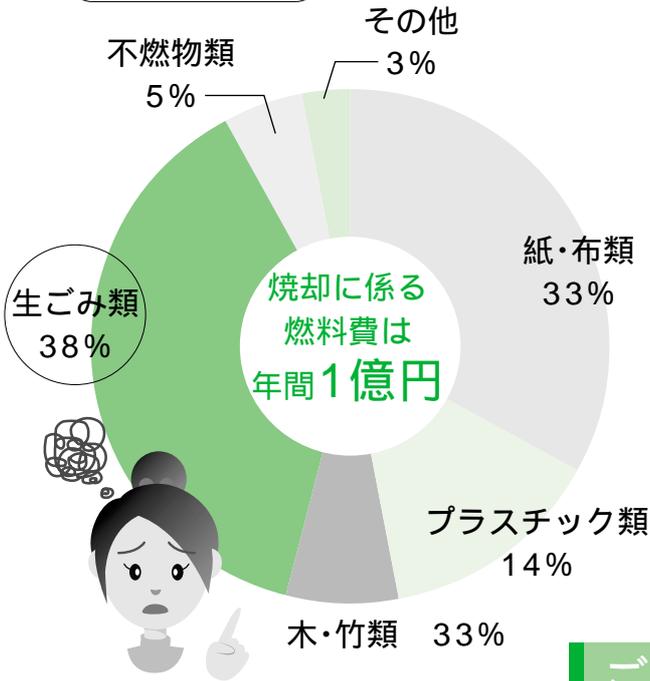
私にもできる？

はい、このバケツで始められるんです！

1年間に出る可燃ゴミの量は、市民1人あたりになおすと約240キログラム。  
その半分近くが生ゴミです。  
もしこの生ゴミを「燃やす」から「活かす」に変えることができたなら…。  
それもこれまでより沢山の人で取り組んだなら…。  
今回の「next door」は1個のバケツから始める生ゴミの循環について考えます。

# 可燃ごみの4割は生ごみ 水を燃やして多大なコスト

可燃ごみの内訳



対馬クリーンセンターで焼却されている可燃ごみのおよそ4割は生ごみ。その生ごみのおよそ8~9割は水分のため、焼却に膨大なエネルギーが必要です。その水を燃やすために燃料を費やしているのが現状です。

もし、この生ごみを堆肥として有効利用することができれば、温室効果ガスの削減、ごみ処理コストの削減だけでなく、島内での資源循環型有機農業の推進や農作物の地産地消につなげることができるのです。

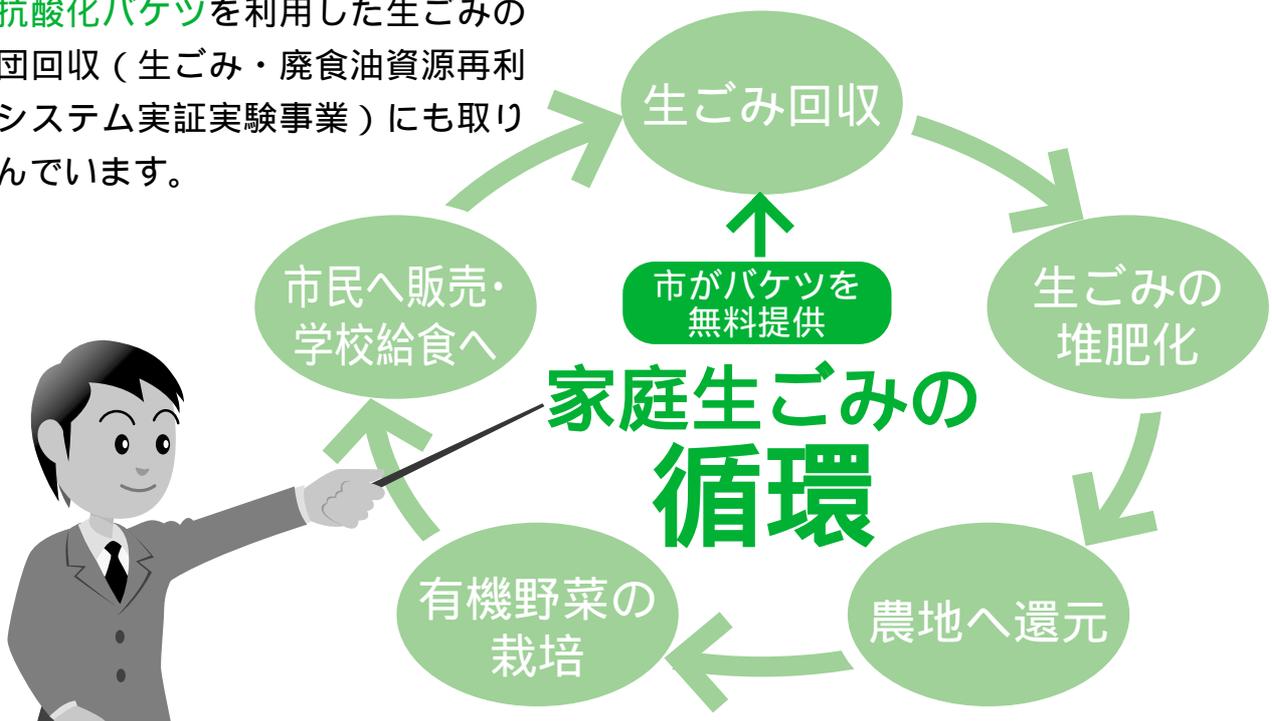
## ごみ袋にいくら使っているの？

1世帯あたりの年間平均使用料（平成23年度）

指定大	約59枚...3,540円
指定小	約19枚.....760円
資源大	約6枚.....180円
資源小	約5枚.....100円
合計	4,580円

生ごみの堆肥化で、家庭で支払っているごみ袋代や対馬クリーンセンターで消費される燃料費を、地域の活動や産業の発展のために回して新しい何かができるはずです。

そこで、これまで推進してきたEMの活用にくわえて、24年度からは抗酸化バケツを利用した生ごみの集団回収（生ごみ・廃食用油資源再利用システム実証実験事業）にも取り組んでいます。



## 面倒くさがり屋の私も苦になりません!

畑島 ゆかりさん(美津島町・雞知)

子どもが通っている鶏鳴幼稚園の母親委員会の紹介で知り、昨年の10月から使っています。最初は難しいイメージばかりで「これは入れていい?」「水切りはどれくらい?」などと悩んでいたのですが、ママ仲間から「排水溝に溜まった生ごみの水分がある程度切れたら、そのままバケツに入ればいいんだよ」と言われ楽になりました。

生魚は熱を通して...。などちょっとした決まり事がありますが、面倒くさがり屋の私でも苦ならず継続できています。

また、子どもが小さいので食べこぼしなどもありますが、そのままごみになるのと再利用されるのでは気持ちが違ってきます。使うごみ袋の数も減って軽くなった上に、生ごみが入っていないから臭いも気にならないし、カラスに荒らされる心配もなくなりましたね。その上、私たちは幼稚園に回収コーナーがあるので、子どもを送る時にバケツを置いて、迎えの時に持ち帰っています。「やってよかった」ということばかりです。



3人の子ともさんも生ごみを覚え、卵の殻などを自分でバケツに入れるようになったそうです。



## ごみ袋が減るのが助かっています

永田 久枝さん(峰町・佐賀)

同じ地区に住む知り合いから「使ってみてくれませんか?」と声をかけていただいたのがきっかけではじめました。ご近所さん3人で近くの生活館に週2回バケツを持っていきます。やはりごみが減ったのが一番で、袋の節約につながるのが主婦としては助かっています。

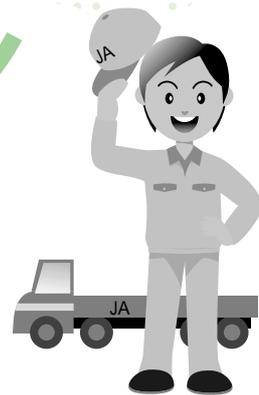
堆肥に利用されるというしくみも大変いいことだと思います。以前子守りをしていた孫も大きくなり、少し時間が出てきたので、いずれはバケツの利用と合わせて、生ごみの一部を花や野菜の栽培にも活かしてみようと思っています。



永田さんは自宅そばの生活館にバケツを持っていきます。グループ毎にこのような回収コーナーが設置されます。



みなさんから回収した生ごみは、JA対馬さんにより堆肥化され、循環有機農業の実現に踏み出しています。



## 皆様へお願いしたい「ひと手間」

抗酸化バケツは市から配布します

1. 水気を切った生ごみを抗酸化バケツに入れます。



2. 指定の収集日に指定の集積所へ生ごみの入ったバケツを持って行きます。



3. 生ごみ収集後のバケツを洗いません（研磨剤等使用しないでください）。



生ごみと合わせバイオディーゼルの原料となる廃食用油も回収しています。

JA対馬さんが生ごみを回収!

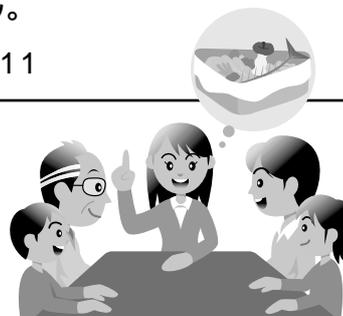
### 私もはじめてみたいと思ったら...

およそ10世帯でグループを作ってください、回収拠点を考えてから下記へご連絡ください。 アパート・一戸建ては問いません。

問い合わせ 市民生活部 環境政策課 0920(53)6111

モデル地区の拡大  
これからの目標は...

平成24年度.....400世帯  
平成25年度...2,000世帯  
平成26年度...本 格 実 施



## 「循環」

これからの日本を、そして対馬を考えると、このキーワードにたどりつきます。

限られた「資源」や限られた「人」であっても、循環させることによって、そのパワーは（無限）です。そう、まさに  !

「手間」はゼロではありません...。「面倒だな」と思われるかもしれませんが...。でも、対馬の未来にはあなたの「ひと手間」が大切なのです。

あなたが少し前に進むと、対馬も少し前に進みます。

大切なこの対馬を次の世代にしっかりと繋いでいくために、今こそみんなで新しい扉：「next door」を開いてみましょう！